

令和8年度「世界史探究」シラバス

科目名		必修・選択	単位数	類型
世界史探究		選択	5	普通科文型・G C科
教科書 副教材等	教科書：詳説世界史（山川出版社） 資料集：アカデミア世界史（浜島書店）			

1 学習目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる資質・能力を育成することを目指す。

2 学習概要

- ・世界の歴史を広い視点から捉え、より深く理解していきます。
- ・いろいろな資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめる力を更に身に付けるようにします。
- ・学習内容や調べた内容を多面的・多角的に考察したり、考察したことを説明したり、それらを基に議論したりします。

3 学習方法

- ・受け身にならないためにも事前に教科書を一通り読んで、問題意識を持って授業に臨んでください。
- ・授業は真剣に、一言一句も聞きもらさず、メモを取るなどしてポイントをつかんでください。
- ・問題意識を持つためにも、質問することを恐れないでください。疑問があったら積極的に質問したり、Chromebook などを使用して調べてください。
- ・副教材のノートや授業のメモをしっかりとめてください。
- ・日頃の「リアクションシート」をおろそかにせず、提出を必ずしてください。
- ・定期試験前には歴史用語はもちろん、その意味もよく理解して覚えてください。

4 評価について

（1）評価方法

「知識・技能（①）」、「思考・判断・表現（②）」、「主体的に学習に取り組む態度（③）」の3観点で評価を行います。具体的に評価方法以下の通りです。

「知識・技能（①）」：定期試験・小テストなど

「思考・判断・表現（②）」：授業プリント・リアクションシート・発表など

「主体的に学習に取り組む態度（③）」：ノート・提出物・授業態度・リアクションシート・発表など

上記の項目を勘案し、単元及び学期、学年の評価とします。

（2）評価規準

	知識・技能（①）	思考・判断・表現（②）	主体的に学習に取り組む態度（③）
評価規準	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

5 学習計画

学期	単元名	学習のねらい（内容のまとまりごと）	考查等
一学期	第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国	○10世紀前半に東アジアで政権の交替があいついだ背景や、そこで成立した諸国の共通点を理解する。 ○モンゴル帝国が成立した背景を多面的・多角的に考察し表現する。	

	第 9 章 大交易・大交流の時代 第 10 章 アジアの諸帝国の繁栄 第 11 章 近世ヨーロッパ世界の動向 第 12 章 産業革命と環大西洋革命	○モンゴル帝国解体後のアジア各地の状況について理解する。 ○ヨーロッパの人々が遠洋に乗り出していった動機や背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ○オスマン帝国の基礎が築かれた経緯を理解する。 ○ムガル帝国の基礎が築かれた経緯を理解する。 ○清朝の領土に組み込まれた民族と、彼らがどのように統治されていたかを理解する。 ○ルネサンスの担い手や彼らの動機について理解する。 ○それまでの教会改革の試みと 16 世紀の宗教改革の違いを多面的・多角的に考察し表現する。 ○主権国家体制の成立の経緯を多面的・多角的に考察し表現する。 ○17 世紀におけるオランダの経済的な覇権獲得および衰退の要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ○主権国家体制においてポーランドとスウェーデンが占めた位置を理解する。 ○科学革命の成果について、自然法則の発見以外にも着目して理解する。 ○海外貿易が近世ヨーロッパ経済の動向に与えた影響を理解する。 ○北米大陸に建設されたヨーロッパ諸国の植民地の地理的分布とその推移を理解する。 ○革命中のフランス国家体制の変遷や革命が諸外国に与えた影響を理解する。 ○ハイチ革命の特殊性について、環大西洋革命の他の事例と比較したうえで理解する。	1 学期中間考查 1 学期期末考查
二 学 期	第 13 章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 第 14 章 アジア諸地域の動揺 第 15 章 帝国主義とアジアの民族運動 第 16 章 第一次世界大戦と世界の変容	○ウィーン会議の参加者たちがどのような国際秩序をめざしていたかを理解する。 ○クリミア戦争におけるロシア・イギリス・フランスのそれぞれの思惑を理解する。 ○領土拡大がアメリカ社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ○19 世紀欧米文化における担い手や展開された場（空間）の推移を理解する。 ○オスマン帝国の動揺の要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ○ヨーロッパ各国の東インド会社が南アジアでおこなった活動の状況を理解する。 ○清朝の危機の要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ○新しく生まれた電気・化学製品が人々の日常生活に与えた影響を理解する。 ○列強の植民地化によるアフリカの社会や文化の変容を多面的・多角的に考察し表現する。 ○日清戦争と日露戦争が中国および東アジアに与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ○バルカン半島で緊張が高まった背景を理解する。 ○第一次世界大戦後の新たな国際秩序が形成された経緯を理解する。 ○第一次世界大戦が東アジアの政治・経済・文化に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。	2 学期中間考查

	第 17 章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 第 18 章 冷戦と第三世界の台頭 第 19 章 冷戦の終結と今日の世界	○世界恐慌が起こった背景やその影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ○開戦直前における各国のナチス＝ドイツへの対応を多面的・多角的に考察し表現する。 ○戦後国際秩序がいかなる構想のもとで形成されたのかを理解する。 ○米ソそれぞれの同盟網の広がりや核開発競争の経緯を理解する。 ○自立化を追求するアジア・アフリカの新興諸国がいかなる行動をとったのかを理解する。 ○国際情勢との関係をふまえたうえで、米ソ代理戦争としてのベトナム戦争の性格を理解する。 ○経済成長にともなう先進諸国の政策・社会の変化を多面的・多角的に考察し表現する。 ○1970 年代後半から 80 年代前半において米ソがそれぞれ追求した対外政策の内容を理解する。 ○旧社会主義国で起こった民族運動や民族対立の特徴を理解する。 ○20 世紀以降の科学技術の革新が人々の生活に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。	2 学期期末考查
三学期	時代の概観（学習の総復習）	学習した内容を踏まえて、各時代の特色について政治・外交・経済・社会・文化各方面から多角的に比較し整理する。	